

連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶこと—多文化共生、サステナビリティについて考えるために」第2回講演「民主主義とネクロポリティクス」／「BLMの文化交差性と日系移民史」2020年11月25日

BLM：文化交差性と日系移民史

友常勉

1 BLM

i 前史¹

2012.2. Trayvon Martin 射殺事件 容疑者 George Zimmerman (パトロールボランティア) 無罪釈放 アリシア・ガルザのツイート”How little Black Lives Matter.”

フロリダの活動家たちによる Dream Defenders 組織、州議会議事堂を31日間占拠

2014.8. Mike Brown が警官 Darren Wilson に射殺 BLM フリーダム・ライドの実践 各地に支部結成

2014.12. Movement for Black Lives (M4BL)組織結成 翌年クリーブランド州立大で全米会議 数百の組織による統一戦線結成

2019. M4BL 「五カ年計画 Black Power Rising 2024」

①大衆参加、②地域に根差したエンパワメント、③運動間の連帯形成/多人種戦略、④リーダーシップ養成、⑤選挙政治への戦略

2020. ジョージフロイド殺害後の BRETHER ACT 警察予算削減 公共安全プログラムへの補助金法案

リーダーたち：

オパール・トメティ アリゾナ育ち、ナイジェリア系アメリカ人 Black Alliance for Just Immigration (BAJI)リーダー

パトリース・カラズ LA の Bus Riders Union オーガナイザー Dignity and Power Now (DPN)刑務所収容者家族の支援 刑務所新設反対運動

アリシア・ガルザ National Domestic Workers Alliance オーガナイザー 黒人やラティナーの家庭労働従事者の権利回復、家庭内労働への尊厳を取り戻すキャンペーン

ii 進行する内戦とアメリカ革命

高祖岩三郎

「(世界の「黙示録的様相」「革命という理念の混乱」のなかで) これは「知性」によっても「社会運動」によっても方向づけることができない恐るべき事態である。だがそれは今まさに、2020年5月31日現在、わたしたちの目前で進行している、アメリカの各都市に飛び火している民衆蜂起の連鎖によって体現されている。ここには主導的知識人も活動家もいない。ひたすら巷で、警察の暴力に立ち向かう「マスクをつけた無名者の群れ」が

¹ 山崎雄史「Black Lives Matter 論序説」、河出書房新社編集部『Black Lives Matter 黒人たちの叛乱は何を問うのか』(河出書房新社2020年8月、以下『叛乱』)

生成しているだけである。この趨勢は、アメリカ合衆国という呪われた連合国家を良くするのではなく、解体したがつている」²

イドリス・アツ・ロビンソン（ニューメキシコ大学博士課程在籍）

「(黒人指導者あるいは表象代行をめぐって) …この蜂起がわたしたちに示しているのは、それに携わっている反逆的な若者たちは、どのような権威が指令する方向性に同意することも拒絶する、自己組織の力を持っているということです。革命を目指す者としての、わたしたちにとって、明らかな課題は、どのようにしてこの定義不能な民衆と関わっていくか、ということです。ただしインターセクショナリティやアイデンティティー・ポリティクスといった支配的イデオロギーが、黒人の若者たちを改宗させようとする白人革命家たちの恩人ぶった姿勢を喚起させざるを得ないので、この問題について語ることに、躊躇があったのだと思います。…わたしたちが認知せねばならないのは、むしろこの反乱が、わたしたちの社会が、市民タイプの分類に執着し、固定化しているアイデンティティーの類型を、どのように揺るがし始めているかということではないでしょうか。…実際、黒人民衆は、アリシア・ガルザとかタナハシ・コーツといった人々のことを知らないのです。…彼／彼女らは、むしろナショナルパブリックラジオの聞き手に向けて、語りかけているのです。その対象は、言わば、クラフトビールのブルアリーに集まる、ケンドリック・ラマーのファンの政治的類事物なのです」³

匿名「ミネアポリス暴動からの報告書」

「この運動は19世紀におけるナット・ターナーの反乱の現代版です。アメリカで革命が起こるとしても、それは生活の貧しさのせいではないし、医療の無料化をめぐってではないし、「コミュニズム」のためでもありません。私たちがミネアポリスの路上とアメリカ全土で目の当たりにしているのは、奴隷所有を認める有産階級に対する武装蜂起なのです。焼かれた街区の通りを歩いていると、ひとびとが「500年、500年」というようなことを口々に訴えているのが聞こえてきます（これは大西洋奴隷貿易が始まって以来の年月を指しています）。これは人種化の装置に対する蜂起なのです」

「香港の運動はミネアポリスの暴動にかなりのインパクトを与えたように思います。…ひとびとは香港で実践されたような催涙ガスを打ち消すためのアドバイスを共有したり、一ヶ所に封じられ動けなくなるのを避ける戦略として「水になれ」というスローガンを掲げたり、レーザーを利用して警察の目をくらませへりを撤退させたりしていました。…戦術

² 高祖岩三郎「危機と破局の相乗効果——マスク機械が結合するもの」『Hapax 13 パンデミック』（夜光社2020年11月）、102-103頁

³ イドリス・アツ・ロビンソン「内在化されかつ排除されている者の革命」、『叛乱』154-155頁。

連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶことー多文化共生、サステナビリティについて考えるために」第2回講演「民主主義とネクロポリティクス」／「BLMの文化交差性と日系移民史」2020年11月25日

的なレベルで知性が構築されることで、「水になれ」という戦略は、いくつかの重要な追加要素、つまり車や銃や放火と総合されたのだと。広く浸透した中枢を持たない略奪行為は、ミネアポリスとセントポールのいたるところで、そのほとんどが車に乗ったグループによってなされていましたが、そのせいで警察はあらゆる方向に戦力を分散させなければなりませんでしたが、だからひとびとはターゲットやウォルグリーンなどの商店に略奪と打ち壊しに入っては、まったく別の方向へと散っていったのです。…戦術はきわめてシンプルで、「あらゆる商店に略奪に入り、なるべくたくさん燃やし尽くせ」というものです⁴

iii 私のリサーチから

2012年から北米日系移民調査 同時にLAのスキッド・ロウ (Skid Row) 調査
友常「資本主義的複合体と空間支配. 1」(『ヒドラ 批評と運動』第一号、2015年)

「スキッド・ロウはロサンゼルスダウンタウン、観光地で知られているリトル・トーキョーに隣接しているスラムである。リトル・トーキョーに隣接し、四つの大通りに囲まれた台形の形をした区画に、12,000人ともいわれるホームレスが居住している。ロスアンジェルス市のホームレスの数は全米最多であり、スキッド・ロウはロス最大のホームレス集住地である。そしてもっとも貧困率が高い。黒人、ラティーノを中心にした住民の多くはアルコール中毒・ドラッグ中毒をかかえている。警察によるハラスメントに二四時間さらされているこの地区では、1970年代には住民の67%が白人で、黒人は21%だった。しかし1980年代の終わりには住民の多くは黒人になった。90年代からはジェントリフィケーションと金融資本による土地・空間の支配が進行している。高家賃のアパートとセキュリティ空間を拡大する都市開発は黒人、貧困層、ホームレスの「犯罪者視」を強め、近隣住民の「モラル・パニック」を煽っている。しかも、「近代アメリカ史における非白人層からの最大の富の収奪」と呼ばれるサブプライム・ローン危機が、こうした傾向を一挙に最悪にした⁵。

…現在の12000人の住民に対して、6500の単身者用の部屋、2000のベッド数のシェルターが保障されている。ただしロス市のホームレス・サービス局やロス市警によれば、2000人から4500人あるいは5000人のホームレスが路上で暮らしている。

スキッド・ロウには、ロス・コミュニティ・アクション・ネットワーク[LA CAN]やLAMPアートプロジェクトといった、住居、人権、医療ケア、社会復帰プログラムを用意しているサポート組織がある。そこで彼ら・彼女らのためのケア施設が地区内に存在する。「ミッドナイト・ミッション」をはじめとした、前述の「ミッション」にはベッドだけでなくシャワ

⁴ 匿名インタビュー「ミネアポリスからの報告書」、『叛乱』168 - 177頁。

⁵ Jordan T. Camp, "Blues Geographies and the Security Turn: Interpreting the Housing Crisis in Los Angeles," in edited by Paula Chakravartty and Denis Ferreira da Silva, *Race, Empire, and the Crisis of the Subprime* (Baltimore: Johns Hopkins University Press 2013), p. 298.

連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶことー多文化共生、サステナビリティについて考えるために」第2回講演「民主主義とネクロポリティクス」／「BLMの文化交差性と日系移民史」2020年11月25日

ーもある。また、地区住民であれば無料で医療が受けられる医療センターがある。LAMPはアートや音楽を通したセラピーを提供している（2019年現在閉鎖中）。パブリック・エネミーの音楽フェスティバルもあり、こうした取り組みはYou tubeでみることができる。

産獄複合体

貧困を犯罪化する刑罰国家＝監獄社会の構築とともに到来した現実とは、産獄複合体の具体化である。スキッド・ロウにおいて、住民たちは日常的に警官と私設ガードマンによるハラスメントを受け、さらに軽微な罪で逮捕されるために刑務所と社会を往復している。それによって住民たちはブラックリスト化され、市民的権利を剥奪されている。…

この「産獄複合体」の特徴は、また、麻薬中毒患者の収監によって、「精神病」棟経営と監獄経営を一体化させていることである。その代表がロサンゼルス市の刑務所＝「ツイン・タワー」である。1500万平方メートルの面積をもち、世界最大の刑務所であるこの複合施設は、男性中央刑務所、拘置所、医療施設、二つの矯正施設（タワー1とタワー2）からなり、9500人が収容されている。収容者は「精神病」治療のために薬物を投与され、日常的に暴力と人種差別にさらされている。…産獄複合体は産業－監獄－精神医療複合体でもある。そしてこの複合体は、スキッド・ロウのような場所からその利益を得ているのである。

スキッド・ロウの日本人

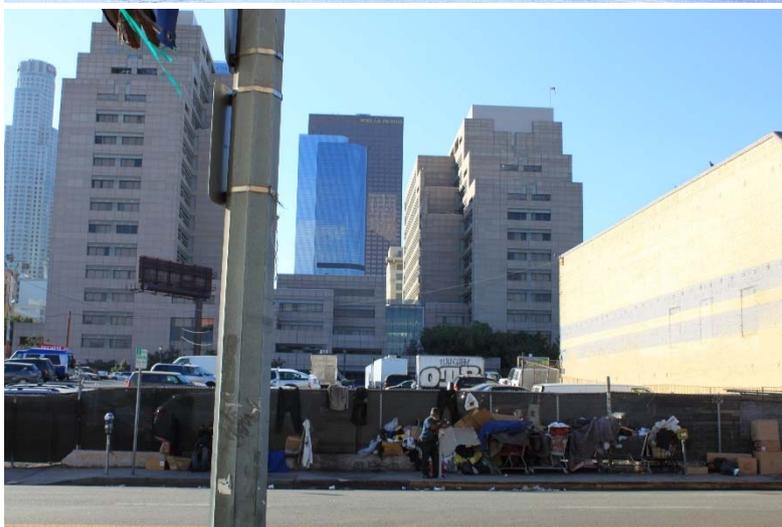
ところでスキッド・ロウに通いながら、一人の日本人と出会った。名前をJとしておこう。一九四五年四月生まれのJは、1980年代に観光ビザでアメリカに入国し、日本レストランで働いていたが、一九八六年の移民法の改正にともなってレストランを解雇され、一九八九年からスキッド・ロウで暮らすようになった。…現在は月221ドルの州政府から出る生活保護と、チラシ配りの日払いの仕事で、月600ドルー700ドルで生活している。スキッド・ロウの住民は地区内のアパートメント・ホテルを格安で借りられる。ホテル代月600ドルに対して、月62ドルの家賃で済む。残りは州政府の負担である。この街では、「ミッション」にいけば真新しい衣服、靴、シャンプー、常に誰かがもってくる食事、そしてシャワーがある。最低限度ではあるが月221ドルの生活保護で、かろうじて暮らしていけるようにみえるかもしれない。しかしそのように生活している住民はまれだ。Jによれば、90%は麻薬中毒である（Jはドラッグを買ったことは一度もない。試したこともない）。スキッド・ロウにはティーンエイジャーも含めて若者が多いが、古いも若きも、男も女も、生活保護を手にしたとたん、早いものは数時間でその金をドラッグに変えてしまう。私がJと会ったのも、二度目に会ってインタビューしたのも、地区内の陽だまりのような公園だが、そこは麻薬ビジネスのセンターでもあった。

…

Jと会った公園のある区画には20台の監視カメラがついている。だが警察は麻薬ビジネスを取り締まろうとしていない。ディーラーを尾行すれば元締めに行き着くはずだが、それ

連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶことー多文化共生、サステナビリティについて考えるために」第2回講演「民主主義とネクロポリティクス」／「BLMの文化交差性と日系移民史」2020年11月25日

をしていない。さらに路上では海賊版のDVDが販売されているが、そして追跡すればメキシコ人が経営している工場までたどりつくはずだが、これも警察は取り締まらない。たまにミリオンダラーの元締めが逮捕されるが。だが、住民に対するハラスメントは厳しい。この地区では何かにつけて警察が因縁をつけてくるし、朝六時から夜九時まで、路上で横になってはいけない。横になると逮捕されるか、ハラスメントされる。地区内の店主たちは赤いシャツを着て警棒を持ち、自転車に乗ったガードマンを雇っており、彼らが住民たちを常に監視している。そこには「麻薬との戦争」をうたいながら、戦争の敵だけは残しておこうという邪悪な意図がみえる」



2 リチャード・アオキと日系移民：ブラックパンサー党（BPP）から Peoples United Front（PUF）まで

i アメリカの「人種的資本主義」

Cedric J. Robinson, *On Racial Capitalism, Black Internationalism, and Cultures of*

連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶこと—多文化共生、サステナビリティについて考えるために」第2回講演「民主主義とネクロポリティクス」／「BLMの文化交差性と日系移民史」2020年11月25日

Resistance, Pluto Press. 2019.

アメリカのアジア戦略と人種主義

Takashi Fujitani. *Race for Empire: Koreans as Japanese and Japanese as Americans during World War II*. University of California Press, 2011.

(タカシ・フジタニ『共振する帝国—日系人米軍兵士と朝鮮人皇軍兵士』、岩波書店、2020年)

友常「部落出身者のハワイ・北米移民」『部落解放』2020年11月号

ii リチャード・アオキ (1938-2009) ⁶

ウェスト・オークランド出身 日系二世

1956年に高卒で8年間軍隊へ(男権主義的なヒロイズムと愛国主義にもとづいて) 退役後、工場労働者になり、社会主義労働者党 SWP (トロツキスト) に参加

1965年ワッツ暴動時の経験

300人の労働者の90%が白人 ワッツ暴動の翌日は工場に現れなかった

「リッチモンドに住んでいる彼らはみんな自分の家のバリケードを作り、暴動参加者が侵入してくるのを防ぐために銃で武装するのに忙しい」

カレッジを経て UC バークレーへ ベトナム戦争と公民権運動の時代

SNCC を経由してブラックナショナリズム

1966年 BPP 結成に参加 Bobby Seale, Huey P. Newton と

自衛のためのショットガンパトロール 「暴力を停止するために」

貧困者、“ルンペンプロレタリアート”、犯罪者を人種的に抑圧されたコミュニティの問題として

Mike Tagawa, Guy Kurose, Lee Lew Lee, Yuri Kochiyama と Asian American Political Alliance 結成(40% JA, 40 CA, 20 FA)、Asian American Studies Program a を UC Berkeley において実現

カウンセラー、教育インストラクター、アドミニストレーターとしてマイノリティ学生や労働者学生の就学支援

2001年9・11後に Yuri Kochiyama と People's United Front を結成 反愛国主義運動

3 BLM: 社会運動の思想の輪郭

⁶ Diane C. Fujino, *Samurai Among Panthers: Richard Aoki on Race, Resistance, and a Paradoxical Life*, University of Minnesota Press, 2012.

連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶことー多文化共生、サステナビリティについて考えるために」第2回講演「民主主義とネクロポリティクス」／「BLMの文化交差性と日系移民史」2020年11月25日

i ケンドリック・ラマー (KL) のコヴェナント神学⁷

KL, "Alright," in *To Pimp A Butterfly* (2015)

Alls my life I has to fight, nigga

Alls my life I...

Hard times like, "Yah!"

Bad trips like, "Yah!"

Nazareth, I'm fucked up

Homie, you fucked up

But if God got us, then we gon' be alright

「申命記 28 章」「もしあなたが、あなたの神、主の声によく聞き従い、わたしが、きょう、命じるすべての戒めを守り行うならば、あなたの神、主はあなたを地のもろもろの国民の上に立たせられるであろう。もし、あなたがあなたの神、主の声に聞き従うならば、このもろもろの祝福はあなたに臨み、あなたに及ぶであろう」

あるいはパウロ「ローマにいる聖徒たちへ」

「あなた方もまたそれら異邦人の中であって、イエス・キリストの召された者である。

(神は) 異邦人の神でもあるのだ」

“Mortal Man”

That's crazy, man, in my opinion

Only hope that we kinda have left is music and vibrations

Lot a people don't understand how important it is, you know

Sometimes I can like, get behind a mic

And I don't know what type of energy I'ma push out

Or where it comes from, trip me out sometimes

(資本主義の悪＝ルーシーに同化している〈俺〉は現世で救済されるのか。

2PAC は〈俺たち〉の闘いを説き、闘いの終結も予想した。しかしどこかからやってくるエネルギーが〈俺〉を突き動かす)⁸

⁷ Christopher M. Driscoll, Anthony B. Pinn, Monica R. Miller (edit), *Kendrick Lamar and The Making of Black Meaning*, Routledge, 2020.

⁸ 牛田悦正「ケンドリック・ラマー、この人間の無力」「ユリイカ」2018年8月「ケンドリック・ラマー-US ヒップホップキングの肖像」、168頁

連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶこと—多文化共生、サステナビリティについて考えるために」第2回講演「民主主義とネクロポリティクス」／「BLMの文化交差性と日系移民史」2020年11月25日

コンプトンで銃とドラッグのなかで悪に染まっている黒人＝エイリアン・シチズンがヘブライーイスラエルの民に重ねられ救済される

ii 神的暴力とBLM⁹

ヴァルター・ベンヤミン「暴力批判論」における神的暴力

(国家暴力としての神話的暴力とは区別されるもの)

他者からの・あるいは宗教的啓示としての「神的暴力」

References

牛田悦正「ケンドリック・ラマー、この人間の無力」「ユリイカ」2018年8月「ケンドリック・ラマーUS ヒップホップキングの肖像」

河出書房新社編集部『Black Lives Matter 黒人たちの叛乱は何を問うのか』、河出書房新社 2020年8月

——山崎雄史「Black Lives Matter 論序説」

——イドリス・アツ・ロビンソン「内在化されかつ排除されている者の革命」

——匿名インタビュー「ミネアポリスからの報告書」

高祖岩三郎「危機と破局の相乗効果——マスク機械が結合するもの」『Hapax 13 パンデミック』、夜光社 2020年11月

Butler, Judith. *The Force of Non-Violence: An Ethico-Political Bind*, Verso, 2020

Camp, Jordan T. “Blues Geographies and the Security Turn: Interpreting the Housing Crisis in Los Angeles,” in edited by Paula Chakravartty and Denis Ferreira da Silva, *Race, Empire, and the Crisis of the Subprime*. Baltimore: Johns Hopkins University Press 2013.

Driscoll, Christopher M. Anthony B. Pinn, Monica R. Miller (edit), *Kendrick Lamar and The Making of Black Meaning*, Routledge, 2020.

Fujino, Diane C. *Samurai Among Panthers: Richard Aoki on Race, Resistance, and a Paradoxical Life*, University of Minnesota Press, 2012.

⁹ Judith Butler, *The Force of Non-Violence: An Ethico-Political Bind*, Verso, 2020